

ノアの箱舟

【聖書】創世記6章5～22節

主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」しかし、ノアは主の好意を得た。

これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェトが生まれた。この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。

神はノアに言われた。「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。

あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもタールを塗りなさい。次のようにしてそれを造りなさい。箱舟の長さを三百アンマ、幅を五十アンマ、高さを三十アンマにし、箱舟に明かり取りを造り、上から一アンマにして、それを仕上げなさい。箱舟の側面には戸口を造りなさい。また、一階と二階と三階を造りなさい。見よ、わたしは地上に洪水をもたらし、命の霊をもつ、すべて肉なるものを天の下から滅ぼす。地上のすべてのものは息絶える。

わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。また、すべて命あるもの、すべて肉なるものから、二つずつ箱舟に連れて入り、あなたと共に生き延びるようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。それぞれの鳥、それぞれの家畜、それぞれの地を這うものが、二つずつあなたのところへ来て、生き延びるようにしなさい。更に、食べられる物はすべてあなたのところに集め、あなたと彼らの食糧としなさい。」

ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。

【序】楽園を失う

神が創造された世界では、どんな生き物も、血を流して命を食い合うことはしませんでした。人間もまた種をもつ草と木の実が食べ物でした。おいしい実を結ぶ木が豊かに生えていたからです。地を潤す川の流域からは金や宝石も産出します。アダムとエバは、ありのままの自分を少しも恥ずかしいとは思わず、素直に出し合い、受け容れあい、一緒に毎日を送っていました。生き物すべてが、仲の良い家族でした。エデンの園はまさに楽園でした。アダムの任務は、楽園の土を耕し、守ることでした。

エデンの園の中央には、命の木と善悪の知識の木が生えていました。この二本の木が、エデンの園の造り主・主なる神の表札みたいなものでした。そして創造者である神は、アダムとエバに命じておられました。「善悪の知識の木の実だけは、決して食べないこと、食べると必ず死んでしまう」。

ところがアダムとエバは、善悪の知識の木の実を食べてしまいました。何が義しいことで、何が悪

いことかを、自分でしっかりと判断しさえすれば、いちいち神に相談しなくてもよいのではないかと、思ったのです。「いつまでも子どもであってはいけない。大人にならなければ——賢くなろう」。

しかし私たち人間は、どうしても自分中心に物事を見て、考え、判断を下しがちです。人が増えれば増えるほど、意見が食い違い、争いが生じ、殺し合いにまで発展してしまいます。神はアダムたちが、次には命の木からも取って食べ、永遠に生きる者になったら、世界はどうなることかと深く心配されました。そして遂に、エデンの園から彼らを追放してしまわれました。

その後のアダムとエバは、どうなってしまったのでしょうか。その点を先週学びました。彼らの間には、カインとアベルが生まれましたが、兄のカインが弟のアベルを殺して、畑に埋めてしまったのです。アベルの血を吸った畑からは作物が生まれなくなり、彼は全地をさすらい生涯を送る者になり果てました。

カインが、自分の献げ物を神が顧みず、弟アベルの献げ物の方を顧みられたことに、非常に腹を立てたからでした。しかしカインは、怒る前に「神さま、どうしてですか？」と尋ねるべきでした。何はさておき、先ず神の御心を聞こうとする信仰が、彼の育ったアダムとエバの家庭には欠けていた結果ですね。アダムとエバは、自分の判断で行動した結果、楽園を失ったばかりか、息子を二人とも失ったのです。そればかりか、初めて産んだ息子カインを、人類の殺人犯第一号にしてしまったのでした。「決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」という神の警告通りになってしまったのでした。

[1] 大洪水の予告

5章にアダムの系図が記されていますが、それによると、アダムはカインとアベルを失った後に、130才の時にセトが誕生し2代目となりました。そしてその10代目にノアが誕生しました。900年近い年月が経っています。そしてノアが500才になり、息子のセム、ハム、ヤフェトを与えられました。

6章11節をご覧ください。アダムとエバ夫婦が楽園を追放されて以来、約1000年の間に「この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた」と記されています。墮落、墮落、墮落という語が三度も繰り返されています。アダムの楽園追放後の世界に、人口が増えるにつれて、人の悪がどれほど増えていったかを表す記述ですね。

しかしその世代の中で、ノアだけは神に従う無垢な人であり、神と共に歩んでいました。そこで神はノアに言われました。「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす」(12節)。「あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい」(14節)。「見よ、わたしは地上に洪水をもたらし、命の霊をもつすべて肉なるものを天の下から滅ぼす。地上のすべてのものは息絶える」(17節)。

こうして、神は**大洪水**の予告と、ノア一家が生き延びるために、ゴフェルの木(いとすぎ)で**箱舟の建造**をお命じになりました。箱舟の大きさが15節に記されています。長さ300アンマ(140m)、幅50アンマ(23m)、高さ30アンマ(14m)。——何とこれは、海底トンネルが開通する以前に、本州と北海道を結んでいた青函連絡船の八甲田丸5400トンよりも少し大きいのです。一体それほどに**大きな箱舟**を、どうやって建造できるのでしょうか？

八甲田丸の建造には、最新の造船所でも**1年7ヶ月**かかっています。それだけの木材を切り出して、海岸に運ぶだけでも大仕事。恐らく**山の中の森**で建造するより他ありません。大勢の人々が応援してくれたのでしょうか？ いいえ、誰一人として手伝ってはくれなかったのです。

舟を山の中で建造する——これは洪水で水が山まで達すれば、舟が浮ぶでしょうから、それは道理にかなっています。しかし、この世界が全部沈んでしまうような**大洪水**が、果たして起こるのか？ 常識では、そんなこと考えられません。ですから**荒唐無稽**な話として、誰も相手にする人はいなかったのです。しかし**ノアは神の言葉を信じ抜きました**。そして家族8人だけで、巨大な箱舟の建造に取り組んだのでした。

[2] ノア家族の素晴らしさ

新約聖書では、この**ノアの信仰**が取り上げられています。世の終わりに対する**心備え**を語る中で、主イエスはおっしゃいました。「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。人の子が来るのは、**ノアの時と同じだから**である。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、**洪水が襲って来て一人残らずさらうまで**、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである。」(マタイ福音書24:36～39)

家族8人だけで、山の中に大きな舟を建造しているノア一家は、おそらく**世の笑いもの**になっていたことでしょう。よくもまあ、**馬鹿げた仕事**に長い年月、打ち込んで、働き通したものです。私はノアの**息子たち**のことを考えずにはおれませんでした。

もしも**私の息子たち**だったらどうでしょうか？ 大洪水でこの世界が滅んでしまう日が来るとの**神のお告げ**を、そのまま信じて、山の中に巨大な舟を造ろうとしている親父——**世の笑い者**になっている親父。**酔狂にも程がある**。とても付き合っては居られない。自分は**自分の人生を大事**にして生きていかねばと、手を引き、親父から**逃げ出しても**おかしくはありません。

ところが彼らは、最後まで**親父と一緒に**、骨の折れる大仕事をやり通したのでした。**偉いな**とつくづく思います。皆さんは如何ですか？ **教会**の場合は信仰によって結ばれた**教会家族**ですから、世間からは**非常識と思われる**ことでも、一つに結ばれて取り組んでいくことができます。しかし自分の家族となると、各自の**自主自立**が何よりも大切ですから、必ずしも**親の言う通り**には事が運びません。それなのにセム、ハム、ヤフェトとその妻たちは、ノア夫婦と**最後まで一体**になって、巨大な箱

舟を造り上げたのでした。大きな驚きですね！

でも考えてみると、先祖の**アダム**と**エバ**夫婦は、主なる神の言葉に反して、善悪の知識の木の実を食べて**楽園**を失いました。そしてその家庭で、兄が弟を殺す悲劇が生まれました。そして善悪の知識の木の実を勝手に食べる罪は、親から子・孫へと引き継がれ、悪が満ちあふれる世の中になってしまったのです。

世界を極めてよいものとして創造された神、アダムとエバをエデンの園から追放されて神が、不法が満ちてしまった地もろともに、**人を滅ぼそう**とお考えになるのは、**当然**ではないでしょうか。「見よ、わたしは地もろとも**彼らを滅ぼす**」との御言葉を、私たちは真剣に、恐れをもって聞きとらなければならぬのではないのでしょうか。

[3] 信仰による家族の一致

「信仰によって、**ノア**はまだ**見ていない事柄**について、**神のお告げ**を受けたとき、恐れかしこみながら、**自分の家族を救うために**箱舟を造り、その信仰によって、世界を罪に定め、また信仰に基く義を受け継ぐ者となりました」(ヘブライ人への手紙11:7)。

ノアは、大洪水をもって、世界に満ちた悪を全て滅ぼし、一掃するという**神の決意**を、**真剣に受けとめました**。そして家族を救うために、神の指示に従い、**大きな箱舟**の建造に取り組む決心を与えられました。しかしこれは、彼一人では、よくなし得るものではありません。**家族全員の協力**が必要です。

だから彼は真剣に、自分の**信仰**を家族に繰り返し語り、**共に祈りを合わせて**、困難な**箱舟建造**に取り組もうとしたのではないのでしょうか。そしてノアのその**真剣な信仰の祈り**が、息子たち家族全員の**祈りの一致**を生み出したのではないのでしょうか。朝昼晩の食事の時だけでなく、危険な作業の最中にも、祈り合ったことでしょう。長い月日の作業です。怪我や病気の時には、さらに皆で心を合わせて祈ったことでしょう。

恐らく工事に、**10年以上**はかかったと思います。心身共に弱り果てて、泣き言も出たことでしょう。でも励まし合って、遂に大工事を完成させたのでした。**ノア一家の結束**——**偉いな**——としみじみ思います。**世界の裁き**を決意された**神の御心**を、**真剣に受けとめ**、祈りを合わせて大洪水に備えようとしたからこそ、人々の嘲りに耐えることが出来たのです。

人々にとっては、事実として洪水が襲いかかるまでは、大洪水は存在しませんでした。そして大雨が降り続き、大水が我が身に押し寄せてきて、初めて大洪水に気が付きましたが、**皆溺れ死んで**しまいました。しかしノアとその家族は、洪水が起こる遥か以前、神のお告げを聞いた日から、大洪水は彼らの心の中に、**事実として**はっきりと存在し続けたのです。まさに「**信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです**」(ヘブライ11:1)。

[結] 今日の箱舟・教会

私たちが今生きている世界も、悪が満ち溢れています。一瞬のうちに広島市民16万人を殺した原子爆弾の投下。かけがえのない大切な命を殺してしまう**戦争**や**犯罪**が、至るところで起こっています。不正不義が毎日報道されています。絶望して命を断つ悲しみ、争いで傷つき苦しむ嘆き等々に囲まれている日常生活を送っています。ノアの時代と同じではないでしょうか。神の裁き、大洪水が必ず起こるに違いありません。私たちは、その日を事実としてはっきり見据えて、確認しつつ生きて参りましょう。

昔、神は、ノアとその家族に箱舟を造らせて、世界の再出発を計りました。しかし旧約聖書の記述が示すように、次々と立てられる預言者の悔い改めの呼びかけにも拘らず、世界の混沌は変わりませんでした。神は遂にイエス・キリストとなって、この世に下り、私たちに悔い改めを迫りました。そして、ご自身から進んで十字架にかかり、すべての人の罪を一身に引き受けて裁きの死を遂げ、私たちが罪赦された者として悔い改めて生きる道を備えて下さいました。

丁度ノアが、神の裁きである大洪水に備えて、家族で祈りを合わせて箱舟を建造したように、十字架のキリストを救い主を信じる**信仰の家**・十字架を掲げる**教会**を建てて、世の終わりの日の裁きに備える道を、準備して下さいました。大きな箱舟を、祈りを合わせて懸命に建造しているノア一家の生活が、とりもなおさず、今日の私たちクリスチャンのお手本です。

日々に祈りを合わせて励まし合い、箱舟としての**川越教会**を建て上げて参りましょう。一人でも多くの兄弟姉妹をこの箱舟造りの家族として迎えて、祈りを合わせて、大洪水の日に備えて参りましょう。大洪水は必ず来るのです。

祈ります：主なる神さま、私たちを今朝もこのように礼拝にお集め下さって、有難うございます。あなたの御名を心からほめたたえます。ノアは何という素晴らしい信仰者でしょうか。またノアと信仰を合わせて、大きな箱舟を造り上げていった家族の姿にも、心を打たれました。どんなに労苦が大きかったことでしょうか。でも祈りを合わせることによって、それらを一つ一つ乗り越えていった家族一同の信仰に、私たちは励まされます。私たちの教会家族の祈りをお導きください。また私たちのそれぞれの家族の信仰をも、お導き下さいますように、お願いいたします。主よ、どうぞ戦争を止めさせて下さい。一人でも多くの方が、終わりの日に、救いにあずかれますようにお導きください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。 アーメン